

令和3年度「子供と家族・若者応援団表彰」受賞者

【子供・若者育成支援部門】

特定非営利活動法人キッズスポッチャ
(大分県速見郡日出町) … 1 頁

社会福祉法人京都保育センターたかつかさ児童館
(京都府京都市) … 1 頁

合計 2 件

【子育て・家族支援部門】

特定非営利活動法人インクルいわて (岩手県盛岡市) … 7 頁

特定非営利活動法人よろん出産子育て応援隊あんまあーず
(鹿児島県大島郡与論町) … 7 頁

合計 2 件

総理表彰

一般社団法人アイネット (茨城県筑西市) … 2 頁

特定非営利活動法人あっちこっち (神奈川県横浜市) … 2 頁

浦添市港川自治会 (沖縄県浦添市) … 3 頁

茅沼建設工業株式会社 (北海道古宇郡泊村) … 3 頁

京都女子大学親子支援ひろば ぴっぱらん (京都府京都市)
… 4 頁

特定非営利活動法人クラウドナイン (大阪府高槻市) … 4 頁

高橋雅子 (埼玉県川口市) … 5 頁

特定非営利活動法人ぱーむぼいす (長野県飯山市) … 5 頁

特定非営利活動法人みやっこベース (岩手県宮古市) … 6 頁

山梨・人ねっこアートワーク (山梨県山梨市) … 6 頁

合計10件

大阪府商工労働部雇用推進室就業促進課 OSAKAしごと
フィールド働くママ応援コーナー (大阪府大阪市) … 8 頁

特定非営利活動法人グローアップ (京都府南丹市) … 8 頁

特定非営利活動法人全日本育児普及協会
(神奈川県横浜市) … 9 頁

託児ボランティアあゆみあそvivaぶんぶん
(香川県高松市) … 9 頁

合計 4 件

大臣表彰

令和3年度「子供と家族・若者応援団表彰【子供・若者育成支援部門】」受賞者概要

内閣総理大臣表彰（2件）

1

特定非営利活動法人
キッズスポッチャ
(大分県速見郡日出町)

障害のある子供たちを対象にしたスポーツ教室活動等を行っている団体です。教室は、レーサーと言われる競技用車いすを使う練習と、立位での短中距離走の練習が中心です。同時に、「大分国際車いすマラソン」など各種の大会支援や、レーサーを子供たちに貸し出す支援活動、パラスポーツに関連した各種活動も行っています。コーチ陣には現役車いすアスリートらも加わり、その優れた指導力や温かいサポートによって、参加した多くの子供たちが成長して、大分国際車いすマラソンなど大小様々なスポーツ大会に出場、上位入賞や完走など一定の成果を残しています。結果、現在は大分県内に加え福岡県内でも教室が拡大され、九州各地から障害のある子供たちが集まるようになりました。スポーツを通じて障害のある子供たちの夢を叶える、ジュニア育成のモデルケースとして発展してきた点が特徴です。



練習風景



パラスポーツ
体験会



団体のホームペー
ジ

2

社会福祉法人京都保育センター
たかつかさ児童館
(京都府京都市)

中高生の居場所事業を展開している団体です。毎週土曜日の17時～20時に実施している「夜間開館」は、当初は中高生の利用が少なかったですが、近隣の中学高校に依頼をし、小学生と遊ぶボランティア体験の機会を創出し、中高生の利用推進に繋がりました。中高生自身がやりたいことができる場を提供するため、「子ども会議」を企画し、中高生から出た意見をもとに世界各国の文化を学び交流する「ワールド体験」や、「京都の食文化体験」など活動の活性化にも繋がりました。中高生は地域の行事に参加することで地域住民と関係を深め、また職員は学校と定期的に意見交換を行う中で、中高生の生きる姿を伝えるとともに、課題のある生徒については関係機関と情報共有を行うなど、地域の中でも大きな役割を果たしています。さらに18歳で卒館した中高生が夜間開館スタッフとなり現役世代をサポートするなど、今後も「継続した居場所づくり」と「利用者が支援者に移り変わるサイクル」を軸にした事業展開を行っていきます。



夕食づく
りの様子



中高生へ向け
た児童館の案
内チラシ



「子ども会議」の様
子

内閣府特命担当大臣表彰10件

1

一般社団法人アイネット (茨城県筑西市)

不登校、ひきこもり、ニートなど青少年のいろいろな問題で悩み苦しんでいる保護者及び当事者の支援を通じて、青少年の自立とより良き意親子関係の構築に寄与することを目的に活動している団体です。

不登校児向けのフリースクールやひきこもり相談支援センターの運営を通じた家族・当事者支援を行うほか、厚生労働省委託の地域若者サポートステーション、障害者就労支援事業所、特定指定相談支援事業所、自立訓練事業所を運営し、就労支援にも取り組んでいます。

また、近年では、DV、虐待支援のためのシェルターの開設や生活困窮者・ひきこもりの方の社会復帰を目的としたシェアハウスの開設、生活困窮者の自立相談・就労準備支援事業の実施など、多岐に渡って活動を行っています。



「ひきこもり女子会」の様子



就労支援（パソコン訓練）の様子



シェアハウスの様子

2

特定非営利活動法人あっちこっち (神奈川県横浜市)

子供たちが優秀な若手アーティストと直接触れ合うことで芸術文化をより身近に体験できる機会を提供している団体です。平成24年より子ども芸術体験事業を開始。令和2年まで神奈川県等の学校機関などで合計300回以上開催し、子供たちの豊かな情操を養う機会を提供してきました。横浜市芸術文化教育プラットフォームにて学校プログラムコーディネーターも務めています。平成27年より芸術による国際交流事業を開始。オーストラリアの芸術団体と連携し、子供向け国際交流プログラムを神奈川県、宮城県で実施しました。平成28年からは若手アーティスト育成事業を開始し、セルフプロデュース、セルフマネジメントに長けたアーティストを育てています。令和2年より、コロナ禍で孤立を防ぐ場を設けるために、横浜市庁舎アトリウムで0歳から入場可能なコンサート・シリーズを開催。更に「子ども食堂とアート体験」プロジェクトを横浜市でスタートし、感染防止対策を徹底した対面型プログラムを実施しています。



「子どものための音楽ワークショップ」の様子



「子ども食堂とアート体験」の様子



「被災地イベント」の様子

3

うらそえしみなとがわ

浦添市港川自治会 (沖縄県浦添市)

自治会の成立は昭和19年です。近年は急激な都市化により、地域人口も市内有数の規模に拡大し、それに伴って地域課題も大きく変化しています。特に近年は、子供・若者が地域の課題に取り組むことを重視しており、地域づくりの一環としての「里浜活動」では、浜の清掃活動や観察会などを行い地域と学校との連携プログラム、環境学習として継続的に行っています。

また、自治公民館を中心に「地域子ども教室・放課後子ども教室」を開始し、地域の子供にサンシンやエイサー、空手等伝統文化のほか習字、ダンス等のプログラムを提供しています。地域の小学校との「学社連携授業」では、総合学習を核に地域高齢者の交流授業などを行っています（現在コロナの影響で中断中）。

このほか、子供の貧困対策として、放課後子ども教室を含め毎週延べ110人に居場所を提供するほか、食事の提供を行うなど様々な活動を行っています。



海の観察会



空手教室



食事の提供

4

かやぬま

茅沼建設工業株式会社 (北海道古宇郡泊村)

同社は、北海道泊村で建設業・土木、建築、道路維持を営む企業です。平成13年6月以降毎年地域のお祭りに会社を挙げて参加し、地域の住民と子供たちのふれあい、つながりを深める良い機会を提供しています。社屋前の駐車場にテントを設営し、手作りの料理を地域住民に無料で提供するとともに、地域の小学生や幼児に菓子を提供し、地域の子供たちに笑顔を届けています。会社総出の参加により、祭りの参加者が回復するとともに、地域住民と子供たちの交流が生まれています。また、会社は、平成24年から毎年地元小学生を対象に道路や橋梁の大切さを学ぶ「アーチ橋の製作体験」など独創性に富む体験学習の機会を行政と協働で提供しつづけています。



お祭りの様子



アーチ橋体験の様子



除雪車見学の様子



絵本贈呈の様子

5

京都女子大学親子支援ひろば ぴっぱらん (京都府京都市)

乳幼児保育・教育及び心理学的なアプローチによる子供・子育て支援を実践し、並行して保育学生を支援者として養成しています。少人数制で1組の親子を1人の学生が連続で担当したり、複数の親子と一斉に交流したりと多様な型式のプログラムを実践しています。子供に豊かな遊び体験を提供し養育者をエンパワーメントすることで、孤独・孤立状態に陥りがちな乳幼児期の親子、外国にルーツがあったり聴覚障害があったりする多様な親子が困難に陥ることを未然に防止しています。来室対面型では親子を分離して、子供には感触遊び、養育者にはオリジナルの心理教育プログラムを提供しています。コロナ禍の令和2年からは、いち早くICTを活用したオンライン・ハイブリッド型の活動を始めています。日英の字幕付きで、オリジナルのデジタル絵本やテーマ曲、手遊び歌等と共にオンラインで交流しながら遊び、録画編集してオンデマンドでも配信しています。



オンライン双方向交流型

イベントチラシ



来室対面型：
養育者支援プログラム

6

特定非営利活動法人クラウドナイン (大阪府高槻市)

「置かれている状況に応じた支援を提供する」という理念を念頭に、主に不登校やひきこもり、またその背景に何らかの課題や事情を抱えながらも医療や福祉に関する支援の対象とならない子ども・若者を支援する団体です。当事者やその家族との相談を積み重ね、当事者の生活リズムやバランスを取り戻す共同生活型自立訓練寮「クラウドナイン西町（現シェアハウス西町）」を運営するところから開始し、就労訓練ができる就労継続支援B型事業所「ジョブピット」を平成29年4月に設置、次いで不登校や社会への適応困難とされる児童の居場所づくりとして、児童発達支援・放課後等デイサービス「エフワン」を設置しました。令和2年10月に精神科医との連携を開始し、訪問看護ステーション「シップ」を設置しました。大阪府の委託事業である「ひきこもり支援に携わる人材の養成研修」を平成29年度より毎年実施し、大学や医療福祉機関が実施する講演にも協力しています。



「ジョブピット」の
様子



「シェアハウス西町」
の様子



「エフワン」の様子

7

たかはしまさこ

高橋雅子（埼玉県川口市）

同氏はアートディレクターの知見を活かし、病院・施設を対象としたホスピタルアートを全国展開するとともに、東日本大震災後は被災地の障害のある子供などに寄り添って、明るい感性や創造性を育む活動も行っています。あわせて、長期にわたり入院生活を余儀なくされている子供に対して、「ハッピードールプロジェクト」として心を前向きに運ぶ人形制作をしたり、「ハッピーアートプロジェクト」として重度心身障害児との交流活動を行うなど、障害をもった子供や被災地に明るい希望と、アートの感性が育まれるような活動を実施しています。



高橋雅子 氏



被災地支援活動の様子



「ハッピードールプロジェクト」の様子



「ハッピーアートプロジェクト」の様子

8

特定非営利活動法人ぱーむぼいす
（長野県飯山市）

長野県北信地域を中心に、子供・若者の自己実現や地域社会の担い手育成を目指して、学校生活や社会生活になじめず、抵抗感を感じている子供・若者やその保護者の支援に取り組んでいる団体です。北信地域の3市（飯山市、中野市、須坂市）に支援拠点を開設し、山間地である当該地域をカバーできるように展開しています。

また、「地域の子供は地域の手で」を柱にし、自治体をはじめ地域の福祉、教育、医療、企業と連携を広げた支援策を構築しています。具体的には、小中学生の学習支援についての学校と連携した早期対応の実現や、就労準備支援で協力企業の開拓を積み重ね、新たな実習先や実習用の仕事の提供に繋がりました。居場所支援の取組として農業体験や除雪体験を取り入れるなど、支援策を地域の課題解決と一体的に構築しています。



学習支援の様子



実習の様子



居場所支援の様子

9

特定非営利活動法人みやっこベース (岩手県宮古市)

東日本大震災をきっかけに設立された団体です。2040年には、宮古市の人口が32,000人まで減少すると予測され、若者の地域外流出が深刻な地域課題となっている中、より多くの子供や若者たちが地域社会と関わる機会や場を作り、進学・就職した先でも、それぞれの形で宮古に関わり続ける若者の育成に取り組んでいます。高校生の居場所をまちに作ることで、地域に関わるきっかけを作ることを目的に、商店街にフリースペース「みやっこハウス」を設置しました。

また、設立後、約50回開催した高校生の話し合いの場「高校生サミット」から、高校生の自主的な活動が派生するなど、「宮古の復興を考えたい、まちづくり活動をしたい若者」と「地域社会」をつなげる様々な活動を行っています。

令和2年度には、親元を離れ、コロナ禍での生活に不安を抱く学生に宮古の特産品を贈る「#ウミネコミヤコの潮風便(宮古市委託事業)」を企画運営し、宮古を離れた学生と地元との新たな関係構築を行っています。



「みやっこハウス」の様子



「高校生サミット」の様子



「IWATE実践型インターンシップ」の様子

10

山梨・人ねっこアートワーク (山梨県山梨市)

平成13年より美術家・教師・社会福祉施設職員、障害者の芸術活動に関心のある市民が集まり、障害児を含む障害者の芸術活動を支援するために、シンポジウムやワークショップを開催してきた団体です。平成22年に「山梨・人ねっこアートワーク」と名称を変更しています。

団体の当初の活動としては、美術活動による障害者(児)支援及びその理解を目的として、施設の若い職員を対象としたシンポジウムや子供・家族(障害者の家族含む)・職員向けのワークショップを開催していました。その後、作品を発表する公募形式のアート展を開催することを活動の中心にして、ワークショップ等を行っています。公募展の運営において障害者施設に勤務する若い職員たちが経験を積む場になると共に、子供を含む次世代が障害者の独創的な表現に触れる機会となっています。



山梨県立美術館ポスター



子供を対象としたワークショップ

内閣総理大臣表彰（2件）

1

特定非営利活動法人インクルいわて (岩手県盛岡市)

ひとり親家庭を中心に支援を行っている団体であり、生活支援・就労支援・子育て支援を3本柱にした包括的支援体制を構築し、それぞれの家庭の状況に応じたきめ細やかな支援を展開しています。

「インクルこども食堂」事業では、食堂機能に留まらず、地域共生型のこども食堂として、企業と連携した職業体験型の「しゃいん食堂」、こども食堂で繋がった課題を抱えたひとり親家庭の生活全般を支援する「インクルすて～しょん」などを行っています。また、コロナ禍においては寄付いただいた食料などを無償で提供する「フードパントリー」を実施しています。

団体の活動は、ひとり親家庭の社会的な自立を支援するのみならず、「当事者支援と地域づくり」を両輪にしながら、誰もが生き生きと暮らしていける包摂された社会の実現に向けて活動しています。



「インクルこども食堂」の様子



学習サポートの様子



フードパントリーの様子

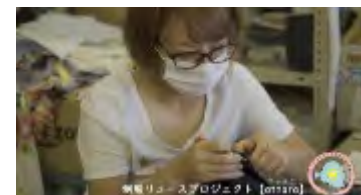
2

特定非営利活動法人 よろん出産子育て応援隊あんまあーず (鹿児島県大島郡与論町)

離島での出産、子育てを支援する団体です。分娩施設のない離島で、主たる移動手段が飛行機やフェリーの地域では、妊娠9か月になると、分娩施設のある地域にホテル等を借り、妊婦一人で1か月以上をすごさなければなりません。このことに着目して、那覇市にマンション一部屋借り、安価で貸し出しています。これまでに与論島の妊婦17名がこの施設を利用し、出産しています。この他にも、出産祝いプロジェクト、アッタラ制服プロジェクト(attra：制服のリユース)、マッタラプロジェクト(M+attra：子育て用品等の交換)、など、内容は他地域にもあるものですが、ユニークな名称のプロジェクトを実施しています。生まれる命は全国どこにいても平等であって欲しいというSDGsの観点から、離島特有の医療問題や物理的及び経済的事情に寄り添った様々な活動を行っています。



活動パンフレット



制服リユースプロジェクト「attara (アッタラ)」の様子

島内で配布した「M+attra」のチラシ

内閣府特命担当大臣表彰（4件）

1

大阪府商工労働部雇用推進室就業促進課
OSAKAしごとフィールド
働くママ応援コーナー
(大阪府大阪市)

支援の専門性が異なる就職支援、子育て支援、その両立支援を、「保育士資格を有するキャリアコンサルタント」の配置によりワンストップでの提供を可能とし、就職支援機関において、保育所探しから入所申込みまでの一貫した「保活」サポートや、パートナーとの家事の役割分担に関するカウンセリングなどを実施しています。さらに、企業主導型保育施設との先導的連携事例として、保育施設と協定を締結し、就職活動中の子どもの一時的預かりサービスを無償提供するなど、支援の充実を図っています。これらの取組は、子育てをしながら就職活動と保育所探しを同時に行う求職者のニーズに合った支援として、高い評価を得ています。また、市町村の子育て支援部署、ハローワーク、商工会議所等との連携体制を構築し、各機関からの相談者の誘導や各地での出張セミナーを通じ、本支援が各地に波及するよう取組むとともに、本取組のノウハウを各機関に伝えることにより、同様の支援が府内で継続的に展開されるよう、取組んでいます。



「ここから子育てを始めるママへ、働くママ応援コーナー」

Web保活セミナーのチラシ



セミナーの様子



「親子同伴可能セミナー時のキッズスペース」の様子

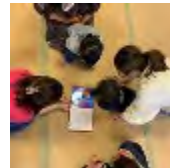
2

特定非営利活動法人グローアップ
(京都府南丹市)

結婚、出産、転居、離職が重なるなど地域社会とのつながりが一旦切れ、孤独や不安を抱える女性が地域で生きられるよう、「つながり」を大切にし、「子育て支援」を切り口にまちづくりを行う団体です。古民家を改修したコミュニティスペース「気になる木JUJU(ジュジュ)」を運営し、平日と月1回土曜日、子供から大人まで気軽に集える居場所として開放しています。スタッフ12人がそれぞれの得意や個性を生かし、毎月イベントや季節イベント、子ども食堂、大人が集う「満月bar」などを開催し、高齢者サロンで交流もあります。また、市内ケーブルテレビでの子育て応援番組、幼稚園・保育所等への毎月通信の配布、SNSの活用により情報を発信しています。赤ちゃんから高齢者まで切れ目なく、地域で生きるための「つながり」支援が行き届くよう、利用者の声を大切に活動運営しています。また、行政と一緒にチームを組んで妊婦訪問・子育て広場開設を行い、次の支援につなげており、希望する広場利用者の子連れスタッフとして採用し、就労の場を提供しています。



「学校連携型小中学生乳幼児ふれあい事業」の様子



「絵本の日」の様子



「気になる木JUJU(ジュジュ)」の様子

3

特定非営利活動法人全日本育児普及協会 (神奈川県横浜市)

父親の育児や家事を支援している団体です。父親も子供と一緒に参加でき、子育ての楽しさや重要性を学べる育児講座を、8年以上開催しています。累計1000人以上の父親が講座に参加しており、満足度は90%以上です。行政や子育て団体と連携し、講座の企画、チラシ作り、広報、集客などを行い、受講者の満足度が高い講座を運営し続けています。令和2年度は、過去最多となる80回の育児講座を開催し、令和3年度は90回の講座を開催予定です。講座では研修を受けた現役の父親が認定講師として登壇し、参加者と同じ環境で自身の経験に基づいた体験談を語ります。毎年、講座参加者から講師として登壇したい父親を募り、研修会を受講して認定講師になってもらうことで、次世代にバトンをつないでいます。所属する認定講師は60人を超え、各地で講師を中心としたパパサークルが誕生しています。又、子供の防犯や防災を啓蒙する紙芝居を制作し読み聞かせをする活動や、父親だけでなく母親からも子育ての悩みや相談を無料で受け付ける活動も行っています。



夫婦のパートナーシップ講座の様子



講座で絵本の読み聞かせのコツを伝えている様子



防災や防犯の大切さを紙芝居で伝えている様子

4

託児ボランティアあゆみあそ^{ビバ}vivaいしんいしん (香川県高松市)

昭和63年より子育て中の人たちが、子育てを楽しみつつ、自分たちのやりたいことができるように託児ボランティア団体として立ち上げました。

その活動の中でいつでもふらりと立ち寄れる居場所の必要性を感じ“あそvivaいしんいしん”を平成19年に開催しました。「ノンプログラムがプログラム」を基本とし、絵本の読み聞かせやおもちゃでの遊びなど、乳幼児親子に自由な遊び場を提供しています。

また、育児休暇中の人に対する職場復帰支援なども行っています。

子供を産み育てていることがその人の人生にプラスになるだけでなく、子育て経験、育休を取ったことが評価される社会を目指しています。子育ては保護者だけが担うものではなく、いろいろな人の力をかりて育てていくことの大切さを伝えていきたいと活動しています。



室内遊びの様子



はじめてのアートあそび



再就職・職場復帰応援冊子